

博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡／湯之奥・中山金山

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報



雪にも負けず
サクラサク
春爛漫

2014年、何を差しおいても、深く記憶に刻みこまれたのは、2月に入って山梨県全域に降った歴史的な大雪！しかし、その逆境にも負けず、今年も桜が咲こうとしています。

博物館リバーサイドパークの桜の中でもひと足早く、河津桜がきれいなピンク色で色づき始めました。これに続くはソメイヨシノ。リバーサイドパークのソメイヨシノのほとんどが1m以上の積雪の重みのため、通常なら折れないような太い枝まで折れてしまいました。でも、嬉しいことにちゃんと蕾が膨らんでいます。自然の脅威もすごいですけれど、自然の生命力もまたすごいです。今頃。

そんな力強くてはかない、一気に咲いてパツと散る、潔いまでに美しい桜を見に来ながら、博物館へ遊びに来てください。

満開の桜を見るには少し早いです。今年の観桜期無休開館期間は2014年3月20日(木)～4月1日(火)までです。

博物館活動がもたらす地域貢献とは

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 谷口一夫

博物館活動がもたらす地域貢献とは、またこれまで地域に何を残してきたのか考えてみたい。金山博物館は平成9年、下部町（現在の身延町）が設置した博物館で国登録博物館となっている。登録博物館の通常的な業務は、資料収集・保存・調査研究・展示・活用（教育普及や地域活性化）である。金山博物館は金山に特化した全国唯一の歴史博物館である。

さて金山博物館設立経緯は、平成元年竹下内閣時代に「ふるさと創生事業」として全国自治体に1億円が還付された際、当時の下部町は、漠然とした武田信玄の隠し金山でなく、正しい湯之奥金山の歴史を紐解き、その成果を生涯学習と地域（湯町）活性化に活用すべきと考え、その資金の一部を湯之奥（中山・内山・茅小屋）金山の総合調査に当てた。この調査会・調査団が結成され、調査は平成元年～3年にかけて帝京大学山梨文化財研究所が中心となり県内研究者はじめ、全国から専門領域の先生方の応援を受け、調査は進められた。

特に考古班は標高1,500メートルの高所にある中山金山遺跡の精錬場や周辺テラスの発掘調査に取り組み、文献・民俗・石造物・陶磁器・鉱山技術史らの学際的な調査によって確かな歴史を明らかにした。

日本では8世紀中頃に東北（涌谷）、北関東（八溝山）、東海（田子の浦）などからの産金が「続日本紀」、「続日本後紀」等に記され、日本における産金事例は事実であるが、その産金技術の形態は解明されていない。

その700年後の15世紀後半に始まった甲斐金

山における山金採掘（鉱石からの産金）の実態は、昭和61年から平成元年に甲州市の黒川金山の総合調査、平成元年から2年まで身延町の湯之奥中山金山の総合調査を踏まえ、その実態が明らかとなっている。この成果は金山の遺構である採鉱域や作業域空間を埋める不定型なテラス群の存在や、そこに残された鉱山道具で鉱山技術のあり方や生活に使われた陶磁器などで操業時代の姿が明らかにされた。その貴重な金山遺跡の現場を保護し後世に伝えるべく平成9年に国指定史跡「甲斐金山遺跡」（黒川金山・中山金山）として指定され、そのガイダンス館として金山博物館は平成9年に開館、幻でない確かな金山遺跡の歴史を伝える活動を展開している。前述のように金山史を伝える歴史博物館は我が国唯一のもので全国から注目され、開館から有料入館者のみカウントしているが、31万人を超える来館者を迎えている。

展示公開されているものは、中山金山の出土資料（産金に使われた鉱山道具、山の生活に使われた陶磁器類など＝全て県指定文化財）や、関係年表・文書、奥山コレクションである甲州金・江戸時代の大判小判（全て身延町指定文化財）など様々な本物の資料が展示、加えて映像シアターでは「黄金の山波」、「ジオラマ展示室」では、リアルな金山の時代的な背景や金山衆の日常が写し出されており来館者の評判は高い。

博物館の運営に当たっては、敷居を設けない博物館を標榜し、またゆとり教育が叫ばれた時期には子供の居場所として開放（現在でも続いている）、入り易い雰囲気づくりで来館者が

じっくり金山の学習ができるように配慮している。その上で教育的効果を狙った各種イベントを展開している。親子映画観賞会は、映像シアター室をそのまま活用し、親子・家族で観賞してもらうなど、友達などが地域で一体化できるように、また他の家族と空間を共有することで自然に躰教室になるよう配慮したもので、すでに150回以上開催している。夏のイベントでは、こども金山探険隊。全国からの参加者を迎え毎年開催しているが、山岳関係者の応援を頂きながら、標高の高い中山金山や茅小屋金山へ登り小松美鈴学芸員の解説による臨地見学、下山して鉱石を焼き、叩き、粉成、比重選鉱で金を採取、翌日には灰吹き作業を体験、思い思いの甲州金などを加工、最後に「こども金山衆」の修了証書を授与、などで参加者に産金技術の流れを理解してもらうと同時に達成感を

味わってもらおうイベント。未就学の子、低学年の子たちも頑張っている。また夏イベントとして定着した東西中高交流砂金掘り大会は、兵庫県・灘中高、報徳中高、東京都・開成中高、大妻中高、神奈川県・慶応義塾中等部、地元から山梨学院中高、峡南高校。過去出校には、甲府駿台中高、東京・海城中高、埼玉・立教新座中高らが名を連ねている。

彼らにとっては金山の臨地研究や精錬技術のあり方を学習するチャンスにも繋がっているが、本物の金山の歴史があるからこそ日本を代表する進学校の生徒らが毎年この身延町の金山博物館へやってくる。当然、地域活性化(温泉地活性化)にも連動しており、地域と切磋琢磨しながら金山博物館の活動はとどまることなく続けられている。生涯学習の拠点・地域活性化の拠点として地域貢献を目指している。

有料入館者31万人目を達成しました

12月27日(金)

年末も押し迫った12月27日(金)、この日は2013年最後の開館日でしたが、有料入館31万人目をお迎えするという記念日ともなりました。31万人目となったのは、沖縄県八重瀬町の皆さんです。

八重瀬町は、毎年年末に身延町を訪れ、町内の施設や観光地を見学し、町内の小・中学生と一緒に自然の里に宿泊し、交流を深めています。その際の金山博物館へ来館と偶然の幸運が重なった中で砂金採りも楽しんでくれました。後日、

八重瀬町に特製金箔記念入館章をお送りさせていただきました。おめでとうございます。



26年1月～3月の博物館活動報告

第2回「金山遺跡・砂金研究フォーラム」大盛況

2月1日(土)

「博物館応援団Au会」の皆さんが企画、湯之奥金山博物館と共催で、昨年好評に引き続き、研究発表会「第2回 金山遺跡・砂金研究フォーラム」を、2月1日に開催いたしました。

“各自の研究成果や情報を真面目に発信しつつ、誰でも参加できる気軽な発表会”がコンセプトで、当日は、県内外から50人以上のたくさんの聴講者の方々においでいただき、会場となった博物館2階の映像シアターは大変賑わい、会も大盛況で成功を収めることが出来ました。

今回のテーマは次の8本でした。

1. 「今後の金銀山研究の進め方」 谷口一夫 (博物館館長)
2. 「岐阜県高山市松谷鉱山調査報告 (2013年までの経過)」 広瀬義朗 (神奈川県)
3. 「入谷千軒の伝承世界」 鈴木卓也 (宮城県)
4. 「比重選鉱の考察」 天野直人 (静岡県)
～ 休憩 ～
5. 「続・湯之奥内山金山調査報告」 小松美鈴 (博物館学芸員)
6. 「趣味の砂金収集道具の最近の動向」 野村敏郎 (兵庫県 私立灘中・高等学校地学科教諭)
7. 「全国砂金採り体験場漫遊記」 石田政明 (神奈川県)
8. 「ゆり分け道具の形状とその分布」 広瀬義朗 (神奈川県)



会場の様子



開式の挨拶をする谷口一夫館長



動画を駆使して砂金の動きについて紹介する天野直人さん (静岡県)



1本目の発表、広瀬義朗さん



鈴木卓也さん (宮城県)、NHKの取材もありました

発表者各々 15分という時間が発表時間として与えられ、まず、谷口館長の『今後の金銀山研究の進め方』を皮切りに発表会はスタートしました。谷口館長は、表題通り「今後の金銀山研究の進め方」と、次に続いていく発表内容と絡ませながら総括的な話をまとめられ、そのバトンを、2人目の発表者の広瀬義朗さんが「岐阜県高山市松谷鉱山調査報告（2013年までの経過）」で受けました。全国各地を広く歩き実際に確認した現場の調査報告の発表を受けて、3人目は宮城県から駆けつけてくれた鈴木卓也さんが「入谷千軒の伝承世界」と題して東北の産金地に伝わる伝承と記録について、また、前半の最後を締めくくった天野直人さんが「比重選鉱の考察」について発表されました。表題からは一見難しそうにも受け取れがちですが、内容は“砂金採り=パンニング”における金の移動の仕方をイラストや動画を使った親しみやすい発表をされました。砂金採り体験が好きな常連のお客様が何人か、飛び入りで聴講しましたが、次回の体験室でのパンニングに活かそうと興味深そうに耳を傾けていました。

ここで休憩を挟み、後半の発表。博物館で継続的に続けている湯之奥・内山金山の現場調査について現在までの状況と新発見について、ちょうどジャストタイミングで、甲府CATVにてオンエアされた内山金山の映像を中心に小松学芸員が発表、続いて兵庫県灘校の教諭、野村敏郎先生が「趣味の砂金収集道具の最近の動向」と題してお話しされました。遠方からおいでいただいたにもかかわらず、たくさんの砂金掘り関連道具をお持ちい



様々な砂金収集道具を見せてくれた野村敏郎さん



砂金採り体験教室のテーマで笑いを誘った石田政明さん



トリの発表を担当、広瀬さん

ただきました。その道具には大きなものから小さなものまで多様で、会場前に並べられたそれらの道具を、休憩時間を使って興味深そうに眺める聴講者の姿も印象的でした。

その後をつないだのは、『全国砂金採り体験場漫遊記』というテーマで登場した石田政明さん。全国に数ある砂金採り体験場の中で自身が行って砂金採りをしてきた感想と評価を発表し、会場からは笑いが起きていました。

最後を締めくくったのは、もういちど広瀬義朗さん。「ゆり分け道具の形状とその分布」と題し、時代と地域を区分しながら自身の考察と研究について“円形のゆり分け道具は主として山金（銀）山で使用された傾向が強く、方形の、特にゆり板と呼ばれるゆり分け道具は河川での砂金採取に用いられたのではないか”と締めくくられました。

フォーラムの内容は幅広く、8本の発表を、聴講者は最後まで興味深そうにそれぞれの発表に興味深そうに耳を傾けていました。

表明していた「堅苦しくない座談会」の名の通り、真面目な報告から、笑いの多い報告まで、様々な切り口の発表があり、また、質疑応答も活発で有意義な会となりました。関係者の皆様はもちろん、ご参加いただいた皆様全員に御礼申し上げます。

応援団の皆さんも、今後の目標や抱負を語りながら、すでに来年への課題と意気込みを見せてくださっていました。今後とも博物館の応援をよろしくお願いいたします。

再演大盛況!「湯之奥金山の財宝を追え!」クリアグループ2組! 1月27日(日)、2月11日(火・祝)

世間を席卷し、すっかりお馴染みになった体験型エンターテインメント「リアル謎解きゲーム」ですが、湯之奥金山を舞台に完全オリジナルストーリーで制作した「湯之奥金山の財宝を追え!」が大好評だったことは『館だより66号』でもお知らせしたとおりです。

昨年、初回となった12月では、定員30名のところ50名を超える参加者の皆さんにお集まりいただき、さらに定員申込みに間に合わなかったというご意見も多くいただいたことから、追加公演の第2回を1月、第3回を2月に開催しました。1月の公演では、3組15名のお客様がご参加くださいましたが、ゲーム開始すると人数に関係なく、大人も子供もゲームに夢中になってしまいます。家族で参加された親御さんに、ゲーム終了後の感想を聞いてみると、「とにかく夢中になって周りを見ていなかったです。」「子供より夢中になっていたかも。すごく楽しかったです」という感想。ちなみに、この回ではゲームクリアのチームはいませんでした。

そして2月。この回はまた40名を超える参加者の方がお集まりくださいましたが、それでも雪の影響で、キャンセルが出てこの人数ですから、関心の高さを感じました。

3回目ともなるとスタッフも、参加者への解説や誘導も効率よくなり、説明やヒントの出し方も手馴れてきたので、その分、参加者も理解しやす



くなったのではと思います。

その効果あってか、この回では何と2組のグループが見事ゲームクリアとなりました。

ゲーム終了後はすぐに、今回用意された謎の解き方と手順を解説しますが、参加者全員が耳を傾け、納得しながら答えを聞いては「あ〜」、「なるほど…」などの声が上がっていました。見事クリアしたチームには会場から拍手が送られました。

一度参加すると、答えを知ってしまうため、同じ謎解きにはチャレンジできないというこのイベント。

イベント終了後のアンケートでは、「絶対リベンジしたいので次を楽しみにしています」という声も多く、スタッフは第2弾の制作に取り組むことを決意いたしましたので、第2弾を是非楽しみにしてください。

ということで!

皆様の熱い声援にお応えして

湯之奥金山博物館オリジナル謎解きゲーム第2弾開催決定!!!

「怪盗18面相からの挑戦状～盗まれた甲州金を取り戻せ～」
期日：平成26年4月29日(火・祝) 午後1時30分～午後3時30分

場 所：博物館多目的ホール(博物館1階)

定 員：30名(要事前申し込み・定員になり次第締め切り)

参加費：大人900円(高校生以上) 小人700円(小学生～中学生)

※当日のみ利用できる「砂金採り体験」チケット付きで超お得!

👉 詳細は7、8ページへ

オリジナル錫コースター 完成！！

2月23日(日)

富士山の日の2月23日にちなんだ「富士山キーホルダーとコースター作り教室」。峡南高校との共催事業で、昨年12月のシルバーアクセサリー作り教室に引き続いてのイベントを開催しました。しかし2月14日の歴史的大雪の後で、参加者が多数キャンセルを余儀なくされたのですが、定員10人のところ午前・午後ともに5～6人の方がご参加くださいました。峡南高校の先生や学生の皆さんも雪で休校だったにもかかわらず、この日のための準備を進めてくれました。

“錫”を扱った体験は今回初めてで、最初はどんな作業が必要なのかと、参加者も疑問がありました。学生たちの作業手順説明で解決。子どもも大人も、手書きのデザインを切り取

り、溶けた錫を型に流し込む作業も自分でやってみて、見事にオリジナルコースターを作り上げました。人気漫画のトレードマークや、自分の家紋を作成する人など様々で、面白いものがいくつも出来上がっていました。

何度かやっていると、アイデアもたくさん浮かんでいきますが、作業時間が一時間で、さらに初の試みということもあり、そのアイデアの反映は次回の機会のお楽しみに、といったところ。

峡南高校の皆さんとも、この体験コーナーをいつでもできるような機会を考えたいと検討中ですから、今回参加できなかった方、また作ってみたいと思う方、ぜひ次の機会を楽しみにしていただきたいと思います。



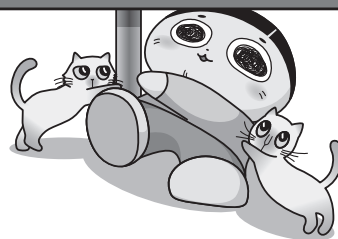
耳寄り情報! 謎解き好きなあなたに贈る!
毎日いつでも参加できる!

常設謎解き

「甲州金座の秘伝書を守れ! (仮題)」

5月1日よりスタート!

博物館事業のお知らせ



通常の観覧券+200円（大人子ども一律）で楽しめる常設謎解き！事前申し込み不要。

受付で「謎解きプラン追加」の旨、伝えてください。スタッフが専用回答シートをお渡しします。制限時間は、その日の閉館時間まで。展示を勉強しながら、途中で休憩しながら、砂金採り体験をしてから、参加される皆さんが自由な時間で、自由なスタイルでお楽しみいただけます。

自分がストーリーの主人公になって、隠されている幾つもの謎やパズルを解いていき、制限時間の中でその答えに近づいていく体験型ゲーム・リアル謎解きゲームの湯之奥金山博物館版第2弾は

「怪盗18面相からの挑戦状～盗まれた甲州金を取り戻せ～」

申込み受付開始!

👉 6、8ページ記事参照

※こちらは要予約制。必ず事前お申込みください。参加されるグループの代表者様がお申込みされる場合、グループ全員の氏名、年齢（学年）、そして代表者様のご住所・電話番号をお伝えください。申し込み後の人数変更及びキャンセルなども、必ず博物館までお知らせください。

湯之奥金山博物館2014夏イベント日程決定だよ！

詳細は後日！今から予定に入れておいてね！！

参加申し込み受付開始。夏休みイベントすべてにおいて事前申し込みが必要です。不明な点等ありましたら、お気軽にお問い合わせください。また、ホームページにて内容の詳しい紹介もありますので合わせてご覧ください。

- ★第1弾 7月20日(日) 夏休み自由研究 第6回化学実験教室
- ★第2弾 7月26日(土) 第14回湯之奥金山博物館杯・砂金掘り大会(一般大会)
- ★第3弾 7月27日(日) 第11回東西中高交流砂金掘り大会(学生大会)
- ★第4弾 8月2日(土)～3日(日) 第14回こども金山探険隊

リアル謎解きゲーム第2弾！4月29日(火・祝)開催決定！ 「怪盗18面相からの挑戦状～盗まれた甲州金を取り戻せ～」

湯之奥金山博物館のシンボル展示の甲州金が盗まれた！？

空になった展示ケースの中には「怪盗18面相」という人物が残したと思われるメッセージカードが残されていた…。

警察も調べを進めている中、名探偵揃いと巷で評判の「黄金村探偵事務所」に捜査協力依頼がきた。君たちは探偵事務所の優秀な探偵だ。これから大事なお客様がご来館するというのにシンボル展示がないのでは博物館として大きなマイナスイメージ！お客様がご来館されるのはあと1時間後。

怪盗18面相が残したメッセージカードを手掛かりに推理を進め、1時間以内に盗まれた甲州金を採り戻し、18面相を捕まえてほしい！！



全てのイベントの参加申し込み・お問い合わせは湯之奥金山博物館(0556-36-0015)まで
👉 6ページへ

編集後記

あっという間の時間の経過。もうついこの前まで大変な大雪に見舞われ、それこそ大混乱でしたが、落ち着きを取り戻したころには夏のイベント準備もしなければと気ぜわしく。1年の4分の1が終わって、今度は3分の1が終わりに向かっていく…。夏イベントを手伝ってくれたジュニアスタッフたちももう高校生。持ってきた卒業証書を見ると“光陰矢の如し”を実感します。さて、これから春本番。雪にも花粉にも負けず、新年度、頑張っていきましょう。

4月までの開館時間：午前9時～午後5時迄(受付は午後4時30分迄)
5月から開館、受付時間共に1時間延長の夏時間です(休館日：毎週水曜日)

博物館だより

第67号 平成26年3月25日

〒409-2947 山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先
TEL 0556-36-0015 FAX 0556-36-0003
博物館HPアドレス http://www.town.minobu.lg.jp/local_minobu/kinzan/index.html
博物館Eメール yunoking@town.minobu.lg.jp